

令和5年度 第3回 (仮称) 図書館中部館建築設計検討委員会  
議事録

開催日時：令和6年(2024年)2月20日(火)

午後1時から

開催場所：彦根市役所 5階 第1委員会室

出席者：金子 尚志 【滋賀県立大学 環境科学部  
環境建築デザイン学科 教授】  
(委員)  
陶器 浩一 【滋賀県立大学 環境科学部  
環境建築デザイン学科 教授】  
北村 正一 【彦根市校長会 代表  
彦根市立稲枝東小学校 校長】  
森 將豪 【彦根市社会教育委員 委員長】  
富永 美砂穂 【彦根市地域文庫連絡会 代表】  
久木 春次 【彦根の図書館を考える会 代表】  
木村 正彦 【彦根史談会 会長】  
川瀬 修 【元長浜市立長浜図書館 館長】  
瀧澤 秀起 【彦根市建設部 副参事兼建築課長】  
古川 雅之 【彦根市都市政策部 次長兼都市計画課長】  
平井 むつみ 【滋賀文教短期大学 国文学科 教授】  
村田 恵美 【滋賀県立図書館 館長】  
北村 みずき 【ひこね児童図書研究グループ 副会長】  
磨谷 絵美子 【彦根市PTA連絡協議会 事務局長】(欠席)

事務局：教育委員会事務局 前川部長  
小島次長  
市立図書館 田中館長  
広瀬主幹  
鈴木主幹  
別符館次長  
稲垣

受託業者：株式会社 坂茂建築設計 坂 茂  
菅井 啓太  
成松 佳恵  
梶原 慧太  
deXen (ディクセン) 荻原 廣高

<p>13:00 事務局</p>	<p>少し定刻より遅れましたが、ただいまから、令和5年度 第3回 (仮称) 図書館中部館建築設計検討委員会を開催させていただきます。</p> <p>委員の皆様におかれましては、大変、お忙しい中、ご出席を賜りまして誠にありがとうございます。</p> <p>それでは、議事に入ります前に、資料の確認をさせていただきます。</p> <p style="text-align: center;">——資料確認——</p> <p>以上ですが、不足はございませんでしょうか。</p> <p>次に、会議の成立要件について、ご報告いたします。</p> <p>(仮称) 図書館中部館建築設計検討委員会設置要綱第6条第3項の規定により、会議は委員の半数以上が出席しなければ、開くことができないことになっていますが、本日は、委員14名中13名の方にご出席をいただいておりますので、会議が成立していることをご報告申し上げます。</p> <p>あと、委員の皆様方をお願いがございます。</p> <p>ご発言される際は、前にございますマイクのスイッチを押してから、ご発言され、終わられましたら、再度、スイッチを押していただきますよう、ご協力の程、よろしく願いいたします。</p> <p>なお、マイクのこの部分が消灯時はオフで、赤色に点灯しましたらオンでございます。</p> <p>それでは、ここからの進行につきましては、委員長をお願いいたします。</p>
<p>委員長</p>	<p>それでは、ここからは私の方で進行させていただきます。</p> <p>皆様、年末の忙しい時期に、お集まりいただき、ありがとうございます。</p> <p>この検討委員会も第3回を迎えておりまして、様々な議論を進めてまいりました。</p> <p>本日は、世界的にご活躍されている、今回の設計者にお越しいただいております。</p> <p>1月の市広報でも、市長と対談された様子が掲載されてい</p>

<p>受託業者</p>	<p>まして、この経緯に関しては、前回の第2回の検討委員会でもお話が出たところでございます。</p> <p>ぜひ、今回の図書館中部館への想いですとか、そういったところのお話を伺えればと思っております。</p> <p>いかがでしょうか。</p> <p>よろしく願います。</p> <p>この度は、この素晴らしいプロジェクト、我々に機会を与えていただいて、本当に感謝しております。</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>今回のコンセプトを、まず概要をお話させていただきます。</p> <p>実は、先日、市長にお会いして、このお話をさせていただいたのですが、最初に市長から言われたことが、比較的小さな規模の建物でもあり、しかもリノベーション、既存の建物がある、こうした仕事なのに、どうして興味があったのですかという質問をいただきまして、ちょっと意外でした。</p> <p>二つ、今回、特に興味があったということをお話しました。</p> <p>その一つ目が、規模が、どの程度から大きい小さいというのか、わかりませんが、小さいプロジェクトでも、大きいプロジェクトでも、僕にとって、重要性はまったく変わらないです。</p> <p>実は、建築の設計以外に、ボランティア団体もやっておりまして、今も能登半島で、1月1週目から大忙しで、仮設住宅や避難所のプライバシーを守る間仕切りを作ったり、そういう事を学生と一緒にやっています。</p> <p>この彦根市とも防災協定を結ばせていただくというお話になりますが、やはり、そういう災害では、復興する時には新しい建築を作るので、設計者は非常に興味をもつのですが、僕はその前に、避難所とか、あるいは仮設住宅というある意味では、環境のあまり良くないところで皆さん一週間、何カ月も生活しなくてはいけないわけで、その住環境を改善するのも、我々、建築家の責任じゃないかと感じております。</p> <p>特に、なぜ地震で人が怪我をしたり亡くなったりするのか。地震のせいじゃありません。</p> <p>建築のせいなのです。</p> <p>建築が崩れて、人が怪我をしたり、亡くなったりしているわけで。</p> <p>我々の責任であるにも関わらず、そういう避難所ですとか、</p>
-------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

仮設住宅に、我々、建築家が携わっていることがほとんどありません。

ですけど、携わることによって、少しでも住環境を良くすることができると思って、やっています。

そういう意味で、仕事の大きさですとか、リノベーションだからとか、そういうことで仕事の重要性は関係ないと考えておりますので、今回、参加させていただきましたということをお話しました。

それと、もう一つお話したのが、すべての領域で、環境問題というのは最も重要な事で、建築、建設関係も、大きなCO<sub>2</sub>の量を出しますので、非常に重要なファクターですけど、そういう意味では、今までは割と、特に日本では、建物を作っては壊し、それは耐震性を増す為には、そうせざるを得ないところもあります。やはり建築を簡単に作って壊してしまうという、今までの風潮は問題だと考えておきまして、これからは、もっと建物を再利用する、リノベーションする、用途を変えていくというのが、世界中で非常に建築の重要なテーマになっています。

ですから、海外でもそういうコンペに参加していますし、そういうリノベーションというものは、建築業界にとって非常に重要な仕事だと考えていますので。

今回、特にリノベーションということで、非常に興味がありまして、参加させていただきました。

その2点を市長にもお話しました。

その後、今回、建築のコンセプトとして、まず、何を考えたかと言いますと、世界中で、日本中で仕事をする時に、なるべくその地域性を少しでも活かしたいと。

地方都市によって、地域性が明確にあるかは疑問ですが、彦根市に建てる以上、何か彦根ということから、あるいは彦根の歴史ですとか、そういうところからアイデアを入れたいと思って、色々、調べさせていただきました。

その時に、一つ気になったのが、この彦根屏風という、昔からの屏風が有名だということを知りまして、さらに屏風というだけではなく、そこに庶民の姿が描かれているというのが、彦根屏風の特徴だということを知りました。

その屏風のような建物をというのが、一つ、最初にヒントがありました。

この建物、外壁がギザギザになっていますけど、増築部分は東から南にかけて、屏風状の表情を作っていますが、やはり建物をなるべく快適にする為には、自然光を最大限利用したいと。

それはエネルギーを最小限にするということにもなりますし、それから図書館の中に入っても、なるべく景色が見えたり、緑が見えたり、雨が降れば降っているのが見えたり、なるべく外との連続を醸したいと。

特に、南に太陽が傾いた時に、普通であれば、ガラス面が大きければブラインドを下げないといけないのですが、なるべくそういうブラインドに頼らずに、間接光で建物のエネルギーを最小限にしつつ、快適な光を皆さんがくつろぐ場所に入れたいと。

もちろん書庫の中は、光をもっとコントロールしますが、皆さんがくつろいで本を読む、あるいはふらっと立ち寄るような、新聞を読むような、そういう場所はなるべく自然光の光をいれつつ、外を見られるようにしたいと考えました。

ですから、この屏風状の木のルーバーになっていますが、これは（スクリーン上）、この右の図面はコンピューター上のシミュレーションですが、直射日光を入るところを黄色く、もっと日が当たるところは赤くなっているのですが、この赤の入り口の場所が変わりましたので、ここは無視していただきたいのですが、やはり直射日光が入ると、非常に明るくなると。

それに対して、我々のルーバーの建て方を、日の方向を、この後、エンジニアの方から、直接、詳しく話がありますが、この角度を調整することによって、ほとんど直射日光が入らない。

ですから、ブラインドを開け閉めする必要がない。

そういう効果が得られます。

ですから、エネルギーを最小限にする、電気の節約をするということと、なるべくブラインドを下げた閉鎖的な空間を作らないようにしたいということが、このルーバーの役割に、彦根屏風だけじゃなくて、二つ意味を持たせています。

そして、なるべく軽い構造を載せることで、基礎の部分でも、既存の建物に対しても負荷を最小限にするということで、木を選びました。

当然、今、CO<sub>2</sub>削減、あるいは吸収ということで、木の建

築利用というのは、業界を挙げてやっていることもありますが、なるべく元々のコンクリートの建物との対比という意味でも、自然の素材を使いたいということで、ルーバーと梁を木で作りたいと考えました。

ただ、結構、大きなスパンがありまして、集成材でも相当梁材が大きくなります。

今回、予算的にも非常に厳密にやっていかないといけないということで、あんまり大きな梁を作りますと非常に高い。

そこで考えたのが、このハニカムビーム。

これは、実は、鉄骨が世の中に出てきて、鉄がまだ非常に、昔はもっと高価な材料だったわけです。

昔はどうやって職人さんが手を加えても、鉄骨の量を最小限にすることによって、建築費を落とすかということ、色んなアイデアが昔はありました。

実は、これ鉄骨で材料を節約する為に開発されたハニカムビームというアイデアで、例えば、この集成材をジグザグに切っていきます。

それをずらして接合する、鉄であれば溶接をするのですが、今回、我々はダボを使ったり、色々なアイデアを出しているところですが、ずらして、六角形の穴を開けていくことによって、元の梁成よりも数段梁成が高くなります。

ですから、元々は小さい梁でも、大きなスパンを飛ばせるようになります。

穴が開いていても、梁の性能に変わりはありません。

よくジグザグの鉄骨のトラスがあるように、中が開いていても鉄骨の性能に変わりはないです。

それでいて、さらに軽くなるというメリットがあります。

そうやってずらしていくことによって、元々小さい梁でも大きなスパンを飛ばせる梁を作ることができる。

これは鉄骨の技術だったのですが、これは、おそらく世界初木造に採用して、今回、コストダウンと材料の最小限化を図ります。

それと偶然かもしれませんが、彦根の市章が六角形でできている。

そういうことにも、この六角形のハニカムビームという物に意味合いがあるのではないかとということで採用しました。

ですから、ここにはCO<sub>2</sub>の削減ですとか、材料を最小限に

していくとか、昔からの知恵が活かされている。

それから、それにちょっと変わった形がありますが、これは子どものコーナーになっています。

(スクリーン映像を指して) 我々が、昔、設計した成蹊大学の図書館ですが、この図書館で、色々と成功した事を、今回、アイデアとして入れているのですが、その一つがしゃべれる図書館です。

実は、この成蹊大学の図書館の検討委員会にも設計前から、僕は、成蹊学園出身だったものですから、加えていただきました。

図書館の関係者、あるいは大学の先生方から、どういう図書館を作っていきたいかという話を聞いた時に、一番多く出た声が、大学生が図書館に来ないという問題でした。

試験の前だけ、ちょっとコピーをとりに来たりするが、普段は図書館に来ないということが一番大きい。

どうしたら学生達が図書館に来て、頻繁に使ってくれるかということを考えていたということがありました。

なぜ、大学生が図書館に来たくないかというと、一つには、おしゃべりができない。

図書館には、大きな共有のテーブルがあるにも関わらず、おしゃべりをしてはいけないという、非常に不合理な事がある。

本を読みながら、色々な友達と議論することも非常に重要だと思うのですが、しゃべったら怒られる。

あるいは、当然、携帯電話なんて使えない。

それでいて、図書館の方が、自分たちが、事務上、電話を使っていると、学生からなんであなたたちだけ、電話ができるのですかと怒られるということも言われます。

そういう意味で、図書館というのは、しゃべってもいい場所と、しゃべらないで静かにする場所と、分けるべきではないか。

ですから、入ったところは、人に迷惑をかけない限りは、皆さんで話をしてもいい。

奥に、段々、行くにしたがって、静かなゾーンになっていくと。

最後には、この図書館であれば、窓際がそうですが、個人用の勉強するスペースが、すべてコの字型に囲われている。

すべての個室はガラス張りですけれど、自然光が入り、自分

で明かりの調度や空調がコントロールでき、静かに勉強できる。

さらに、そこが二重になっていることによって、その内側にある書架の冷暖房の空調効果が高められる、二重の役割があります。

ですから、今回も書架の回りには、個室を並べました。

そこが一番、静かな空間です。

入ったところは、人に迷惑をかけない限りは、おしゃべりをしていてもいいですよ。

ここに通称「プラネット」と名付けた場所があります。

ここは研究会を開いたり、色々な用途に使われるのですが、それがすごく人気が出まして、予約を取るのが大変なくらい人気になりました。

ちょっと変わった空間でもあるし、落ち着くということもあると思います。

ここが、大学生に、非常に人気だったものですから、たぶん、今回、子どものコーナーを作れば、子どももあそこに上がりたいと思って、増えるのではないかと思っています。

これが八の字。

通称「はちのがた」で、プラネットみたいに一つずつ丸が独立しているわけではないのですが、有機的な空間を、かちっとした機能の空間の中に浮かんだようにすることで、子どもたちが来たら、「あそこへ行きたい」というような空間を作りたい。

屋根の部分は、完全には掲載していませんが、小さい部分は、背の高さまで丸の柔らかい壁がありますが、上には吸音材を、これも六角形にして、できれば回転できればいいなと思っています。吸音材の屋根が付いておりまして、カラフルです。

子どもが入ったら、あそこに行きたいと思うような空間を作って、子どもの空間を少し分ける。

成蹊大学で成功しましたから、今回もこれを採用しました。

大きなコンセプトはこういう事です。

彦根らしい物になって、皆さんが日常的に来てくれる空間になればいいなと、考えて設計させていただきました。

大きい概念はこういった事で、細かい事は、エンジニアの方から説明いたします。



各委員	<p>ありがとうございます。</p> <p style="text-align: center;">＜拍手＞</p>
委員長	<p>ありがとうございました。</p> <p>これまで、我々、検討委員会の中で、色々と議論していたわけですが、やはり設計者ご本人からお話というのは、非常にわかりやすく、コンセプトの核心を突いていらっしゃったのではないかと思います、伺っておりました。</p> <p>なにしろ、地域性、それから環境という、彦根市にとっても非常に重要な建築になるのではないかと思いますので。</p> <p>今から完成が楽しみという、非常に期待できるのではないかと、伺っておりました。</p> <p>どうもありがとうございました。</p> <p>それでは、今のお話に対して、何かコメント等ありましたら。</p> <p>いかがでしょうか。</p> <p>ぜひ。</p> <p>いらっしゃっていますので。</p>
各委員	<p style="text-align: center;">＜意見等なし＞</p>
委員長	<p>それでは、進行させていただきます。</p> <p>議事に従って、進めてまいります。</p> <p>まずは、第2回のふりかえりについて、事務局から説明お願いいたします。</p>
事務局	<p style="text-align: center;">———説明———</p>
委員長	<p>ありがとうございました。</p> <p>先程のふりかえりについて、ご意見等、いかがでしょうか。</p>
委員	<p>設計者のお話を聞いて、とても感動しました。</p> <p>本当に良い方が、良い事務所さんが引き受けてくださったなとうれしいです。</p> <p>どうぞ、よろしくお願いします。</p> <p>ふりかえりの質問ですね、私の話し方が悪くて、ニュアン</p>

	<p>スが少し違ったかなというのがありまして。</p> <p>「質問 7 太陽光発電のクラウドファンディングができないか」という風に要約されているのですが、「太陽光発電が設置できないか」ということをお聞きしたつもりでした。</p> <p>市民がクラウドファンディングをして、市民共同の発電所ができると、図書館と市民の共同のシンボルになるのではないかなと思ったので、その時、発言しましたが、お答えいただきましたかったのは、「太陽光発電ができる強度があるか」ということです。</p> <p>クラウドファンディングができるかという事をお聞きしたかったわけではないので。</p> <p>その点だけ。</p>
委員長	事務局で、今のお話を受けて、ご修正をお願いできればと。
事務局	すみません。 その様に修正させていただきます。
受託業者	<p>一つ、よろしいですか。</p> <p>ソーラーパネルはお金がかかりますが、もしクラウドファンディングでも、どういう方法でもいいのですが、もし入れられたら、ぜひ、入れてほしいなど、僕は考えています。</p> <p>やはり、今回の能登で、建物自体は、それ程、ダメージが大きくななくても、電氣的な自立、水道もそうですが、できていない為に、避難所にもならないです。</p> <p>電気さえ通じれば、水でも受水槽でもあれば、避難所になるところがまったく使えないで、温室で寝ている方もいます。</p> <p>避難所として。</p> <p>それを見て、これから公共施設は、なんとか予算を取って、エネルギー的に自立していくというのが、これからの大事なテーマではないかなと考えています。</p> <p>予算あつてのことですから。</p> <p>強度的にも、上に重い物を載せる、それなりの補強が必要でも、それはできない事ではないですから、構造的に。</p> <p>ですから、予算さえなんとかなれば、あつた方がいい設備だと僕は考えています。</p>

<p>委員長</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>確かに、昨今の状況を見ますと、公共施設の在り方という意味では、検討の必要があるかなと思いますが、これも予算ということがありますので。</p> <p>引き続き検討ということで、事務局の方で抑えていただければと思います。</p>
<p>事務局</p>	<p>了解しました。</p> <p>ありがとうございます。</p>
<p>委員</p>	<p>ここで良いのかわかりませんが、せつかく設計者がいらっしゃいますので。</p> <p>図書館では、利用者と職員の動線が大切だと思っていて、その為には、図書館がどのようなサービスをしていくのかを、はっきりさせていく必要があると思っています。</p> <p>図書館がやりたい事ははっきりしていないと、利用者の動きと、職員の動きが想像できないという事になるのかなと思います。</p> <p>なので、今の設計段階で、書架であるとか、コーナー、備品等の配置を工夫して、動線をシミュレーションしながら、色々と考えていくという事は、これから、どんなサービスを、どうやって提供していけばいいかという事を、具体的に確認していく為の大切な、設計者と図書館員との作業になるのかなと思っています。</p> <p>できれば、サイン等もこれからどういったものにするのかという事も含めながら、職員と設計者の方と一緒に考えてもらって、進めていただければありがたいなと思っています。</p> <p>それでは、前回の意見のところ、もう少し検討を加えていただきたいなと思うところがあります。</p> <p>意見17のブックポストの上に庇というところで、庇を設けましたという事ですが、東面の壁なので、北風などの横風に対しては、なかなか、防ぐことができないので、実際に、利用者の方が返しに来ると、非常に大変なのかなという心配があります。</p> <p>できれば、事務所側の壁、既存の東側に何か細工するというのが難しいと思うので、南面の事務室側の壁に、風除室を狭め</p>

ながらも、奥の方であれば、ブックポストは可能かなと思います。

そうすれば、北風や雪に対応できるので、その辺を考えていただけるとどうかということ。

あと、意見18の雑誌タイトルのところで、将来的な事を考えて「もう少し余裕を」と言ってしまったのですが、彦根市さんの今の図書館が、160タイトルというのをホームページで確認したのですが、ここでの利用を考えると、120タイトルというの少ないので、「もっと必要」と言い直します。

それも、ご検討いただければありがたいです。

質問19のカウンターですが、図書館では、カウンターでの利用者さんとの関わりを最も大事にしています。

そんな中で、読書案内をすとか、あるいは場所を聞かれた時に案内すとか、未返却の本を確認すとか、そういった事を行う場合に、すぐにカウンターから出て、説明なり、案内なりする必要があるのでということ。

そうすると、やはり一つでは少ないです。

あと、空けていただいた90cmのところも、跳ね上げのカウンターとなっていますが、跳ね上げということは、通常は下がっていて、閉める時は上げてというタイプですよね。

通常は閉めておいて、上に跳ね上げるというのではないと思うのですが、そうだとすると、カウンター側の管理するエリアと、利用者側のエリアと、明確に分けたいという意図があるのかなと思っています。

個人的には、利用者近くて、フロアへ出やすいことを管理よりも優先したいなと思っています。

また、事務室の南側の扉ですが、そこからフロアへ出ようとすると、大きくカウンターをぐるりと回りながら出ていくしか方法がないので、そこからストレートにカウンターを通過して、フロアへ出られるという事も必要なのかなと思います。

それと、図面の説明で、カウンターの声が聞こえるように、引き戸にしていますというところがあるのですが、おそらく引き戸を開けばなしにしておいて、カウンターとのつながりということでしょうが、既存の建物で見ると、そこは窓になっているので、例えばガラス張りにしておいた方が、利用者さんとのつながりが良くなるのかなと思うのですが、いかがでしょうか。

	<p>最後に、意見20のヤングアダルトコーナーについてですが、前回、うまく説明ができていなくて、伝わらなかったかと思しますので補足します。</p> <p>まず、図書館の入り口から遠いところへ持って行って、そして資料を5千冊程用意していて、(前回の時には、部屋全部がYAかと勘違いして5千冊と思ったのですが、今は2,500冊とかになるかと思っています)そこは、書架に囲まれて、机がある部屋になっている。</p> <p>その場所で、どのようなサービスをしたいのか、どうやって10代の彼らに来てもらうのか、あるいは興味を持ってもらっていきたくてもらうのか、そういった工夫が必要で、すという事が言いたかったのです。</p> <p>YAサービスというのを重点に考えておられるのなら、例えばですが、現在のレファレンスコーナーになっている部屋と、前の廊下も含めてしまって、図書館の中ではあるのですが、ヤングアダルトに向けた別の図書館を作りますよというぐらいのチャレンジがあってもいいのかなと、その世代に、しっかりと資料を揃えて情報提供しているという姿勢としても。</p> <p>あと、例えば、彦根市さんなので、壁に「ひこにゃん」を描いて、一緒に並んで右手を出すと「ひこにゃん」と握手をしているように見える壁を作るとか。</p> <p>これは検討してもらわなくてもいいのですが、そういった面白さというか、そういった、何か具体的な物を作っていくということを、職員と設計者の方で、意見交換しながら考えていただきたいという様な事を申し上げるつもりでした。</p> <p>答えてもらうという事ではないかもしれませんが、もう少し検討を深めてもらえるとありがたいと思います。</p> <p>以上です。</p>
委員長	<p>今、4点ほど、ご意見をいただいたと思いますが。</p>
事務局	<p>今、委員からいただいたご意見ですが、私の進め方が悪く申し訳ないのですが、次の次第(2)平面計画等に係る意見聴取等についてで。</p> <p>最初はふりかえりという事で、(1)では、出来ない事だけをお答えさせていただきました。</p>

<p>委員長</p>	<p>(2)の方で、今いただいたご意見等で対応させていただいた事などを、ご説明させていただきたいと思います。  そのような形でお願いします。</p> <p>そうしましょう。</p> <p>その他にも平面計画等で、ご意見が出てくるかと思しますので、今、委員から出たご意見4点に関しても、次の項目で触れていきたいと思ひます。</p> <p>そうしましたら、事務局からあったのは、間違いがないかという、議事録の確認という事だと思ひますので。</p> <p>その点に関しては、いかがでしょうか。</p> <p>問題がなければ、次に進めさせていただきたいと思ひます。</p> <p>そうしましたら、次の「(2) 平面計画等に係る意見聴取等について」と「(3) 環境計画について」は、関連がありますので、併せて、ご説明を受けた上で、今の委員のご意見も踏まえて、議論という形にしたいと思ひます。</p> <p>よろしいでしょうか。</p>
<p>各委員</p>	<p>&lt;頷く&gt;</p>
<p>委員長</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>そうしましたら、(2)、(3)のご説明をよろしく願ひします。</p>
<p>事務局</p>	<p>それでは、受託業者より、ご説明させていただきます。</p>
<p>受託業者</p>	<p>それでは、ご説明をさせていただきます。</p> <p>ふりかえりの中でも、触れていただいているところもあるのですが、全体の配置に関しては、特に大きな変更はありません。</p> <p>後で、大きな図面でお見せしますが、入口のこの部分。  庇が、前回、お見せした物は、ずいぶん高かったのですが、雨の吹込みなどを考慮しまして、高さを下げております。</p> <p>それと車いす駐車場からの動線について、屋根をとという話があったのですが、費用を算出すると、かなりコストがかかるというのがありまして、実際、それをするかどうかというのは、今後、図書館との協議となります。</p>

先程、太陽光の話もありましたが、屋根を付けるぐらいだったら太陽光を載せる等、そういった事に、お金を充てられるといいのではないかと考えております。

平面については、拡大した図面がありますので、そちらにて細かい説明をします。

図面の密度を上げていっています。

BDSの記入ですとか、入口周り、風除室の車いすを置くか、ですとか、そういった事を議論してきました。

それと、今回、開架ラウンジですが、こちらについては、吹き抜けの2層分の空間になっていまして、空調の効率を良くするという事で、床吹の空調を採用しております。

床吹の空調は機械をこういうところに（図面カウンターから事務室入口横）図面上入れています。

そういったところの配置も詰めております。

2階に関しては、大きなところとしては、児童開架のスペースを、冊数等の関係もありまして、元々、閲覧ラウンジで冊数がある程度、確保していたのですが、奥の、元々、おはなしの部屋だったところにも書架を設けております。

おはなしの部屋自体の使い勝手については、この建物の象徴的なラウンジ、ここでできる事と、暗転するようなイベントについては、小会議室でできるといいのではないかという事で、図書館と協議しました。

使い方によって、どちらも選べるような形で、今、計画して、全体の児童開架の書架数を増やしております。

閲覧ラウンジの大きな壁面の書架ですが、ここは2層分あるのですが、この部分を一般の方が使えるのか、図書館の職員だけが使うのかという話をしていたのですが、図書館の方と話した結果、この書架というのは、閉架書庫の5万冊というのは確保しているのですが、すぐに一杯になる可能性があるのではという話がありまして、この部分は職員だけが使う、ちょっと扉などが付いているのですが、職員さんが使う書庫ですが、開架の書庫、見せる書庫として、扱ったらどうかということで、今、進めています。

細かいところをご説明します。

入口の庇は、この点線のところまでありまして、ブックポストをこちら（庇の下）に設けております。

風除室が両方から入れるようになっているのですが、この

風除室のところにブックカートを用意しています。

ブックカートを使う利用者の方が多いということで、こちらで、入ってきた時にカートを持って、中で借りたい本などを入れて。

貸出しの手続きをした後に、帰る時に出る直前までカートで運んで、ここから（カート置き場）からは手で持って行くという動線がいいということで、こちらにブックカートのスペースを計画しております。

BDSは、入口がここだけになりますので、一カ所。

本当に、最低限のスペースで確保しております。

先程も話がありましたが、カウンターですが、L型で、貸出しのゾーンとレファレンスのゾーンがあります。

真ん中に、先程、意見もありましたが、跳ね上げのカウンターを付けていまして、出入りができると。

こちら側（入口側）の職員の方は、階段の横のスペースから出られる計画になっているのと、レファレンス側の職員はコピー機横から出入りができる。

ブックトラックを事務室の中へ入れるという話がありまして、ブックトラックの動線として、幅の広い扉（コピー機横の入口）を設けています。

こちらから、一般開架へ本を運べるような動線を確保しております。

一般開架ですが、特に、大きな変更というのはないのですが、今、実際に書架の間隔だったり、置ける冊数、その辺の中で、どういう風に配架していくかというところを詰め始めているところです。

まだ、お見せできるような段階ではないのですが、次回には、その辺りも、ご説明できるようにしたいと思います。

先程もありましたが、元々、ホールとして使われていた部分というのは、扉が両端にしかありませんでした。

この部分には、コンクリートの壁があったのですが、構造的に問題がない形で、なるべく真ん中の方にしております。

一般開架とYAの方までつながっていくような。

この部分（YAコーナー）は、元々は小さな個室にはなっていたのですが、なるべくつながるようにして、全体としては、切れていない、ここ（閲覧コーナー）が廊下状にならないように、図書室の一部になるように、計画しております。



YAが一番奥にあるのですが、この辺りは構造とは関係ないので、使い勝手に決めていけばいいところですが、今、低い書架で簡単に仕切っておりまして、その奥に、展示台という形で本を平置きで置けるようなスペースとして作っています。

次が、先程、ご説明した、ラウンジ部分の書架について、正面から見た絵を作っています。

上の絵が、図面上この面（閲覧ラウンジ正面奥）になりまして、こちらが直交する面（正面向かって左側）になります。

書庫の高さを、結構、余裕があると考えていたので、450の高さで書いた絵というのが、この8ページ目の絵になります。

先程、説明した空調機は、この扉状のマークが書いてあるところに入れてあります。

この時の書架での冊数が6千冊。

実際には、この450というのは、棚のピッチとしては大きいので、もう少し小さくするとどうなのかというのが、次の9ページ目の絵になります。

こちらは300ピッチにしているのですが、この部分は細かく棚が入っているのですが、実際には、この上にも増やそうと思えば増やせるのですが、あんまり上の、この2段とかは使いにくいので、今、入れていません。

これで1万冊くらいは、確保できるという形になっています。

これは、まだ、これで決まったという話ではなく、図書館さんに我々が少なくても6千冊、多ければ1万冊という図面でご提示している段階です。

こちらの親子ラウンジですが、親子ラウンジについては、先程、ご説明したように、おはなしの部屋と兼用するところがありまして、朗読会の様なことをする時に、この下の絵のようにイメージしております。

吹き抜けに、浮かんだような形であるのですが、おはなし会をする時は、こういう風に背景となるパーティションのような物を用意して、話される方に向かって、子どもたちが囲えるように、中心を見るように、そういった事ができるように間仕切りを用意しています。

この間仕切りは、デザインのイメージとしては、こういう紙の筒、紙管を使った物にして、この建物の特徴となるような物

受託業者	<p>になればいいかと思っています。</p> <p>先程、説明にありました屋根の部分ですが、六角形の吸音板みたいな物を想定してしまして、この吸音板が軸を境に回転する、これは残響時間の調整でしたり、埃の清掃ですとか、そういった事ができるように、回転させられる様になっています。</p> <p>このラウンジの部分ですが、元々、この際に本棚を置いていたのですが、やはり足掛かりになって、吹き抜けに人が落ちるとか、そういった心配もあるということで、すごく低いソファの様な物を用意してしまして、ぐるりと座れるスペースにしています。</p> <p>子どもの高さだと、どちらかと言うと囲われたような形になっています。</p> <p>ここまでが、建築計画的な話ですが、ここから先程の日射の斜影の話でしたり、風の流れ、どうやって自然換気をしていくのかといった事を、専門のエンジニアの方にお話してもらいますので、少し準備がありますので、お待ちください。</p> <p>よろしくお願いたします。</p> <p>まず最初に、この建築設計における環境計画というのは何をするのかという事から、ごく簡単に説明させていただきます。</p> <p>先程、設計者のお話にもありましたが、近年の建築では、脱炭素化などを目指して、建物のエネルギー消費や二酸化炭素の排出量を減らす為に、自然の力を上手に使いながら、快適でありながら省エネという建築の実現を目指しています。</p> <p>しかしこれは、こうした事が配慮されていない古い建築物を改修したり、増築したりするような場合には決して簡単ではなくて、慎重でかつ先進的なアプローチというのが求められます。</p> <p>そこで設計チームでは、最先端のコンピューターシミュレーション手法を駆使して、環境にやさしい、公共施設の改修事例として、先進的に実現しようと、今、チャレンジをしているところです。</p> <p>さて、今、映っています（スクリーン上）、11ページと12ページには、彦根市の気象データが載っていますが、自然の力を上手に使う為には、まず、彦根市の気候をしっかりと分析</p>
------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

することが大切です。

先程、設計者のお話にもありましたが、地域性を建築に活かす為の重要なステップでございます。

詳細な説明は省略しますが、ここから読み取れる彦根市の特徴としては、年間を通じて温暖な気候である。

具体的には、4月から5月、10月から11月といった4カ月程度、窓を開けてうまく換気をすれば、エアコン要らずの季節がある。

そして、太陽の日差し、つまり日照時間が一年を通じて、比較的長く、安定しているということ。

また、先程、風の話もありましたが、北西から南東を結ぶ安定した風の流れ、琵琶湖と鈴鹿山脈を結ぶ風の流れがあるなどがあげられます。

この先、13ページから先は、この彦根の穏やかな気候を前提に、春や秋を中心に、窓を開けて自然換気を行って、エアコンを使わずに過ごすための提案です。

もちろん、それぞれの部屋の窓を空ければ、十分に換気ができると皆さんご想像できると思いますが、今回のこの大空間の部分、閲覧ラウンジを中心とした大空間の部分は、複雑な空間性を持っていますので、自然環境は決して簡単ではなく、高度な検証が求められます。

そこで、次のページ（13ページ）から説明していきますが、これまで詳しい検討を繰り返した結果、図にある3カ所。

赤で囲った3カ所について、開閉できる換気窓を計画することが良いということがわかりました。

これによって、1階の閲覧ラウンジ、2階の親子ラウンジ、そして空間がつながっている児童開架スペースまで、一斉に自然換気を行うことができます。

14ページになりますが、これらの窓を一斉に開けて、自然換気をおこなった場合の閲覧ラウンジ、親子ラウンジ、そして児童開架スペースまでの温熱環境を、コンピューターでシミュレーションした結果を報告させていただきます。

このシミュレーションの前提としては、外気温は春や秋を想定した内から20℃としており、外の風は敢えて無風として、コンピューターのシミュレーションをおこなっております。

より難しい条件の中で様子を見ることで、安全側の結果を

得ることができるということになります。

左側の上下2枚。

1階と2階ですが、換気をした時の屋内の風速を1階2階それぞれで表しています。

全般に0.1～0.2 m/s。

1秒あたりどれくらい進むのかという風速になっていて、非常に穏やか。

ストレスのない風を、安定して感じていただけるということを示唆しています。

また、換気によって入ってくる空気の量を検証したところ、厚生労働省が定める、感染症対策に必要な風量も十分上回っていることを確認しておりますので、この点においても、安全・安心な建物として、ご提案できるかと思っています。

真ん中の2枚は室温です。

下の図、1階閲覧ラウンジを見ると、21.5～23.5℃くらい。

上の図、2階で、22～24℃くらいになります。

大きな吹き抜けですので、2階の方が少し室温が高めになります。

最後に、一番右は、SET\*（エスイーティースター）という少し専門的なものなのですが、人が実際に感じる温冷感を示しています。

人間というのは単に、温度だけで暑い・寒いを感じているわけではなく、湿度ですとか、風（空気）の流れ、日差しなども影響を受けています。

これはSET\*という、それら全部を考慮した、実際に人間が感じるものに近い体感温度になっています。

こうしたちょっと専門的なものも含めてシミュレーションしてみました。

すると、1階は日差しの影響を受けて、窓際で少し高め、24℃くらいになっていますが、一方で、上の2階の窓際を見ると真っ赤です。

これは、非常に暑いことを示しています。

窓際は一般的に暑い、ご想像のとおりなのですが、1階は空気を取り入れる窓もあります。

日差しがあっても、風が窓から入ってきますので、24℃くらいまで抑えることができていると、ご理解いただければと

思います。

屋内側へ進むと、さらに体感温度は下がって、21～22℃くらい。

2階の親子ラウンジ、児童開架スペースでは、22～23.5℃くらいということになります。

この事から、外気温18、19～23、24℃くらいまでの日、春や秋では、自然換気によって、大空間全体を適切な温冷感に保てるということを確認して、今日のご提案に至った次第であります。

15ページに移ると、上半分は、今の結果を断面図で表したものです。

ちょっと時間のこともありますので、省略させていただきます。

その下のグラフですが、左二つが1月～12月の冷暖房負荷、エネルギー負荷の推移を示しております。

左は、自然換気をおこなわない場合、右側が自然換気をおこなった場合。

もちろん、図書館ですので、高い湿気で本を傷めないように、雨が降っている日や、湿度が極端に高い日は、自然換気をおこなわないというシミュレーションの想定にしております。

そして、これを1年分に積算すると、一番右の棒グラフになりますが、当該エリアで、約15%の冷房エネルギーの負荷が削減できるという事を確認しました。

これを、仮に、全館で自然換気をおこなうとすると、毎年10万円弱ぐらい光熱費を削減でき続けるということを示唆しております。

今後、実施設計に向けて、この自然換気、春や秋だけではなく、夏や冬における冷暖房のシミュレーションをおこなって、1年中、適切な温度環境となるように提案を続けていきたいと思っております。

共有するものを切り替えさせていただいて、せっかくですので、シミュレーションをおこなった中で、空気の流れがどうなるかというのを動画で作ってまいりましたので、ご参考までに、ご覧いただければと思います。

(スクリーンを指し)これが閲覧ラウンジです。

ちょっと動かしてみます。

窓側から入った空気が、この様にずっと床を循環していき、それが徐々に徐々に上空へと上がって行って、屋根の下まで到達します。

そうすると、また広がりを見せて行って、ゆっくりと空間を循環しながら、最後、窓から出ていく。

ハイサイドライト（高窓）からですが、側壁窓から屋外へ出ていきます。

ゆっくりとした、しかし、心地の良い空気の流れというものが、全館に染み渡ると言いますか、流れを作ることができることを確認しております。

こういった、最新、シミュレーション技術なども活用しながら、今後も、検証していく事を考えています。

最後に、光の件になります。

17ページ以降は、窓からの太陽の明るさだけによって、室内をどれだけ明るくできるかということ。

これを自然採光と言いますが、これをコンピューターシミュレーションで検証したものを紹介します。

この17ページは、昼光率という基礎的な明るさについて検証した詳細の結果ですが、今回は、時間の関係もありますので、省略させていただきます。

18ページ、それぞれの部屋で求められている照度という明るさの基準、ルクス（lux）というのを聞いた事がある方もいらっしゃるかと思いますが、それに対して、1年間、365日の内、何%の割合で、それが現れるのかというのを計算しています。

左の上下2枚は、一般に、図書閲覧室で求められる500luxという明るさに対して、自然採光、自然の明かりだけで満足する時間の割合を示しています。

1階閲覧ラウンジの窓際では、1年のうち80～90%、500lux以上が作られるという事。

つまり、照明を点灯する必要が、一年中、ほとんどないということを示しています。

半分くらいは、そんな空間になっています。

一方で、一般開架、児童開架スペースに関しては、既存の建築物に窓がありませんので、敢えて天窗を追加しています。

その直下を中心に、1年の30～40%で500lux以上が作られていることが確認できました。

これだけで、1年中、ずっと保つわけではまったくありませんが、照明の点灯量ですとか、点灯時間を減らすことが十分できるという事で、省エネに、十分、なります。

また、右の図ですが、このDA1000という二つの図に関しては、高齢者でも十分な明るさと言える1,000lux以上になる時間の割合を示しています。

この様に、若齢者から高齢者まで広く満足いただけて、省エネともなる明るさ環境について、自然採光と人工照明を組み合わせ、今後、検証を続けてまいります。

最後になりますが、19、20、21ページでは、夏至、秋分、冬至、それぞれの午前10時、正午12時、夕方16時の代表的な時間について、詳しく照度を解析しています。

いずれの場合にも、午前には閲覧ラウンジが一時、1時間～2時間程度、赤い色で示された、日差しの強い時間というのが現れます。

けれども、この時間は、カーテン、ブラインド等を含めながら、今後、検証してまいります。その他の時間、それ以後の時間。

昼から閉館まででは、一切、カーテンなどを閉める必要がなく、直射光が入ってこない。

この点は、冒頭、坂さんからも説明がありましたが、このルーバーによるもので、この建物ならではの特徴になっています。

一方、天窓の下付近では、赤いポツポツ。

天窓を付けましたので、その下に、赤く高い明るさというのを確認できますが、天窓自体は乳白色で、光を拡散できるものを選定してまいります。

赤く、すごく明るそうに見えますが、最大でも3,000～5,000lux程度。

書籍が日焼けになるような、そういった悪影響を与えないような照度ができることを確認しています。

今後、実施設計に向けて自然採光と人工照明を組み合わせ、適切な明るさ、そして省エネにつなげる環境作りという、両面、実現できるように、検証してまいります。

取り急ぎとなりますが、私からは以上です。

皆さんからのご意見をいただければと思います。

<p>委員長</p>	<p>ありがとうございました。  オンラインで、ご説明もいただきまして、重ねて、お礼申し上げます。  ありがとうございました。  それでは、第3回にもなります。  だいぶ具体的な、そして、詳細な検討に入っているのではないかなと思います。  ここから、質疑応答という形にさせていただければと思います。  委員の皆様方、ご意見等ございましたら、よろしく願いたします。  いかがでしょうか。  そうしましたら、皆様からのご質問をお待ちしている間に、先程の委員からのご意見に対してのご回答をいただく、という流れでよろしいでしょうか。  先程の4点。  改めて、ご回答お願いします。</p>
<p>受託業者</p>	<p>貴重なご意見ありがとうございます。  まず、ブックポストに関しては、今回、模型も更新させていただいているのですが、底をなるべく低くはしています。  一番は、吹き込みの話なのかなと思うのですが、それがどういうところかという事と、ポストをこちら側に設けるというのもあると思うのですが、その時には、どうしても風除室の位置は、ここのガラスの壁を左側に持っていくと、どんどん狭くなるので、なるべくここは抑えておきたいのですが、どうしても風除室の中からブックポストへの返却という形になるかなと思っておりまして。  夜中も開けておくのかどうなのかなど、その辺の管理の方をどうするかという課題があるかと思っています。  雑誌のタイトルに関しては、まだ、開架ラウンジの方は、実は、まだ、余裕をもっていて、あまり細かい設計までできていないところがあるのですが、タイトルも、もうちょっと増やせるので、その辺りは、図書館と協議させていただいて、増やしていければいいのかなと思っております。  この前、図書館との打ち合わせで意見があったのが、このカウンターに居る職員の方が、事務室内と音がつながっていて</p>



ほしいという話があつて。

ここは、元々、開き戸だったのですが、引き戸に変えて、開けっ放しにできるようにしております。

閉めたい時には、閉められるようになっているところですが、ご意見にあったガラス等にして、中が見えるようにしておくとか、そういった事は対応できますので、図書館と協議をして、どういう仕様にするか決めていきたいです。

一つ、建築側の制約として、この部分が、木造部分とコンクリート部分の境界になりまして、火災の時に、木造側の火災がコンクリート側にいかないとか、コンクリート側の火災が、木造側にいかないとかという必要があります。ここには、防火戸を入れる必要があります。

たいした話ではないのですが、開けっ放しにしておいても、火災があれば、火災報知機に反応して、引き戸が閉まるといった仕掛けが必要にはなりません。

次の大きな話としては、カウンター。

図書館の中心だと思えますが、職員の方が出られるスペースが、この部分と、こっちの扉が2枚あるところと、2カ所、設けていますが、カウンターから出る時には、一応、階段の横のところから閲覧ラウンジの方へ行くのと、このカウンターを上げて、こちらから出入りできる場所と、この端っこ、ここから出るというのと、3カ所、取っています。

長さ的には、それぞれ、4m、5mぐらいのところ出入りできるので、そこまで長くはないのかなと思っているのですが。

この正面の部分に関しては、あんまりカウンターを切ってしまうと、ゾーンがはっきり分かれなとか、そういうこともあるのかなと。

あと、階段がずっとここから上がっていくのですが、あんまり低いところで、職員の方が出入りするの、ちょっとどうなのかなと思、こちらには設けていないです。

YAのところに関しては、今、冊数は出していませんが、このYA自体は、一番、奥になっているのですが、色々な要望を聞きながら奥にいったしまった感があるのですが、この部屋全体で、どう使っていくかということかと思つていまして。

今、この部分が、どうしても仕切りっぽく見えるのですが、

<p>委員長</p>	<p>低い2段の棚なので、この机(会議室の机)ぐらいの高さのイメージで、見通しが効くようには作っています。</p> <p>この辺りは、後で模型を見ていただくとわかっていただけます。</p> <p>YAコーナー、今、3千冊です。</p> <p>この壁面やテーブルを考えて、3千冊ぐらい用意できるかと思っています。</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>先程、エンジニアの方からもご説明にありました12ページの資料、風向き、風の強さの図がありましたが、こういった資料から見ても、先程のブックポストの風の話がありましたが、ちょうど一番強い風向。</p> <p>今日、お集まりの皆様は、彦根の風の様子というのは、よくご存知かと思いますが、特に冬の時期、北西から吹いて来る風に対しての、そういったご心配だったとも思いますので、その辺りも改めて、ご検討いただければとも思いました。</p> <p>一先ず、ご回答いただきましたが、何か、それに対してのご意見、よろしいですか。</p>
<p>委員</p>	<p>カウンターのところですが、図書館員としては、日常の業務になりますので、多少でも迂回していくというのは、非常にストレスかなと思います。</p> <p>基本的な考えとして、管理の部分と分けるというよりは、より利用者に近いという事を求めてほしいかなと思います。</p> <p>跳ね上げのカウンターというのは、出る時に跳ね上げるということですか。</p>
<p>受託業者</p>	<p>そうです。</p>
<p>委員</p>	<p>跳ね上げて出ていくというのは、職員として面倒なのでどうなのかなと思います。</p>
<p>受託業者</p>	<p>我々が思ったのが、ボタンで上がるとか、そういった事ができると受け入れられるのではないかと思っていました。</p>
<p>委員</p>	<p>私としては、例えば、利用者と接する時に、「ちょっと待つ</p>

<p>受託業者</p>	<p>てくださいね」と言って、こう跳ね上げて行くというのが、なかなか心苦しいなというところがあります。</p> <p>その辺りは、実際にされるのは図書館の方なので、もう少し詰めていただいて、どういったカウンターがいいのか、考えていただければと思います。</p> <p>あと、ガラスと言っていた既存の部分ですが、窓がありますよね。</p>
<p>委員</p>	<p>外壁としての窓ですね。</p>
<p>委員</p>	<p>その部分を、例えば、ガラス張りにすれば、より近いですよという話をしましたが、その辺はいかがですか。</p>
<p>受託業者</p>	<p>物理的に、声、音が聞こえる方がいいと望まれていまして、それで引き戸で開けっ放しにしたりというので。</p>
<p>委員</p>	<p>事務室からフロアが見えたり、フロアから事務室の方が見えるというのも、オープンでいいのかなと個人的には思うのですが、それは、図書館によって違うのですが。</p>
<p>受託業者</p>	<p>一方で、つなげたいのですが、中があんまり見えすぎてしまうのもどうかという意見もありました。</p> <p>色んな意見があった中で。</p>
<p>委員</p>	<p>わかりました。</p>
<p>受託業者</p>	<p>カウンターに関しては、今の図書館のカウンターの長さが15mと長くて、それを基準に図書館と話をしていたのですが、もう少し機能を落とし込んで、本当に必要な長さはどうなのかと。</p> <p>そういう事を話し合っていきたいと思っています。</p> <p>たぶん、ここの部分は、このまま進めていっても、ずっと同じような話になっていくと思うので、設計側で、どういう風に解決できるかをしっかりとやっていきたいと思っています。</p>
<p>委員</p>	<p>後で聞こうかとも思ったのですが、カウンターの役割分担というのは、返却・貸出し、予約の受付・引き渡しといった事</p>

受託業者	<p>       があって、その辺りを、どの様に配分されているのでしょうか。        例えば、今、1階、2階で、予約の受け取りを、どのように配分するのかなど。        そういった事も含めて、カウンターの役割と在り方というのを考えていただければいいのかと思います。        あと、すみません。        YAで言おうとしていた事です、要するに、どういうYAサービスを、図書館がしようとしているのかということだけだと思っています。        例えば、YA世代に向いていると言われていたような資料をどんと置いて、「はい、コーナーです」ということで終わるのか、その世代に対して、「こういう資料をきちんと集めて提供していますよ」というところまでするのかという事だと思います。        6千冊、7千冊というオーダーで集めて、それをしっかり見せ、そこへ行きたいと思ってもらえるしくみがないと、YAサービスというのがしっかりしてこないのか、その辺がどうかという事です。        今の場所だと、大活字本と朗読CDやデイジー、LLブックなどが入っているので、その辺とYAと、どういう関係をもたせているのか、(隣にある) 対面朗読室を意識されているのかなと思うのですが、実際には、対面朗読室は入口の近くにあった方がいいのかなという気がします。        対面朗読室にしても、どう使うのかというところをしっかりと意見を合わせてもらって、その中で、先程も言いましたが、利用者と職員の動線をシミュレーションしながら、どういう場所がいいのかということを検討してほしいなと思います。        すみません、よろしくお願いします。        YAに関しては、おっしゃる通りで、場所的にはあんまり良くないところだと思います。        図書館が実際、開館してやっていく中で、どうしていくんだと。        ここを魅力的にしなくてはいけないというのがあるので、我々サイドとしては、家具だったり、そういう物で、魅力的に     </p>
------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<p>委員長</p>	<p>していこうというところがあるのですが、やっぱり中身が一番だと思いますので、その辺、もっと深く話し合っていくようにします。</p> <p>はい、ありがとうございました。</p> <p>どういう風なイメージにしていくのかという言葉もありましたが、その辺りをもう少し具体的に、ご検討いただくことかなと思います。</p> <p>それから、カウンターに関しては、やはり図書館における司令塔と言ってもいいかもしれないですし、来館者、利用管理者との大きな接点になる場所ですので、引き続き、ご検討いただきまして、どちらにとっても利用しやすい、使いやすい、管理しやすいというところが重要かなと思います。</p>
<p>受託業者</p>	<p>今のカウンターの話は、1階だけではなく、2階も、富永委員からもご意見いただいています。2階は貸出しだけではなく、使われている人に目を行き届かせるというところだと思いますので、その辺についても図書館と話し合っていきたいです。</p> <p>どうしても、この親子ラウンジを見るという事と、児童開架スペースを見ていくという事があるのですが、外せない構造の壁というのがありまして、開けられるだけ、開けようというところがあって、カウンターからの、ここに居るような人だけが全体を見るというのは、難しいのですが、ご意見にもありましたが、人的なところでの管理とか、管理と言うと、支配的な感じがしてしまうのですが、子どもたちが本を楽しむ場所をサポートするようなボランティアの方とかが、こうした場所にいますと、ソフト面で、何か、解決できるのではないかと、ご意見いただいて、思いました。</p>
<p>委員</p>	<p>すみません、せっかく（話が）2階の方に行きましたので。2階のカウンターでは1人を想定していますよね。</p> <p>たぶん1人だと無理では思いますので、2人は必要です。</p> <p>自動貸出機との関係などありますが、2階にはないので、例えば、2階では貸出しをせずに、1階へ誘導するとか、そこは考え方ですが、自動貸出機をどう使うかということだと思います。</p>

	<p>基本的には、カウンターでしっかりと貸出しをしてほしいと考えていますので、その辺も含めて考えると、今の2階のカウンターでは少し物足りないなということがあります。</p> <p>当然ですが、2階の方にもカウンターバック（カウンターの後ろ）は、予約を受けるのであれば予約棚が要るとか、あるいはいろんな資料を置くとか、作業をするとか、そういったことが必要なので、もう少し広めになるように置いておかれた方がいいのかなと思いました。</p>
<p>委員長</p>	<p>ありがとうございます。</p>
<p>委員</p>	<p>1階と2階の構造の高さ等についてですが、まず、先程の話がありましたYAコーナー。</p> <p>大活字本とか。</p> <p>これは1階だと思うのですが、子どもたちが実際入って利用する時に、この本いいなとかいろんな声が出てくる。</p> <p>朗読CDがあって、耳にあてて聞くのか、その音の様子イメージがつかないです。</p> <p>先程、話がありましたグループ学習室も、一つの部屋として静かな環境を図書館として望まれているのか。</p> <p>今、学校でも推進していますが、共同的な学習ということで、話をしたり、対話的に話をしていく。</p> <p>本をしっかり学習の材料として利用するというのであれば、この辺、子どもたちが利用するのであれば、当然、声が出てくる。</p> <p>対面朗読室についても、同じだと思いますし、先程、おっしゃいましたYAコーナーについても、閲覧が3席しかないという中で、どれぐらいの子どもたちが、実際、この場所を利用して、どういう風に活用していくのかという。</p> <p>図書館としての狙いなり、方向性が、この部分、一般のお客さんとの関わりの中で、まだ見えてこないなと感じます。</p> <p>2階についてですが、非常に素晴らしい構造で、子どもたちが、「あそこへ行きたいな」という円形のところなのですが、この場所は、声という事から言いますと、2階は子どもたちが自由に声を発せられる場所なのかなと思います。</p> <p>当然、読み聞かせがあったり、グループで学習する場所があったりとか、そういう音が外にも漏れるという部分だと思い</p>

	<p>ます。</p> <p>若干、心配していますのが、クッションソファを置かれて、高さです。</p> <p>子ども達、当然、色んな子ども達がいるので、ここは下足だと思うのですが。</p> <p>靴、履いたままですかね。</p> <p>ちょっとわからないですが、椅子に上った状態で下を見たいと言った時に、乗り出して体が下へ転落するというような。</p> <p>110 (cm) だと、小学生だと、140、150 (cm) ありますので、かなり高さ的には低い部分かなと。</p> <p>そういう視点で見た時に、例えば、ここに透明の強化プラスチックがあるとか、光を採り入れながら、子どもたちが楽しめる、お話を聞ける場所になるような工夫があるといいなど。</p> <p>ちょっと、そういった落下事故の心配をしたもので、お伝えさせていただきます。</p>
委員長	<p>ありがとうございます。</p> <p>この件に関しまして、いかがでしょうか。</p>
受託業者	<p>落下に関しては、1,100というのは、ある程度、一般的によく使われている高さではあります。</p> <p>このソファに乗ってしまうと少し高さが低くなるので、心配はあるのですが、一応、設計としましては、小さい子が下を覗けなくてもいいというような設計にしている、囲われている感じを出そうとしています。</p> <p>あとは、吹き抜け側を見られる方がいいのかどうかですが、それは、この部分で見なくても階段側で見えてくるというのがあるので、ここはどちらかと言うと、囲ってやることで集中できればいいのかなと思っています。</p> <p>高さに関しては、最適な高さというのを、我々は、もう少し考えないといけないのかなと思っています。</p> <p>ただ、あんまり高くし過ぎるのもというのがあり、そこは、非常に悩ましいところです。</p> <p>今は、最低の高さ1,100で図面は書かせていただいています。</p>
委員長	<p>そうしましたら、関連ということですので、どうぞ。</p>

委員	ソファの高さは、どれくらいですか。
受託業者	20cmぐらい。 すごく低くしています。
委員	ありがとうございます。
受託業者	この部分は、一応、ここ（真ん中辺り）で、靴を脱ぐように考えています。
委員長	<p>今のご質問に絡んで、私からも申し添えておきたいのですが、1,100という寸法は、建築基準法でも規定されている一般的な数字なので、数字に関しては問題ないと思うのですが、どうしても、今、お話にあったソファの高さ。</p> <p>それから、背もたれのところもありますので。</p> <p>靴を脱いでというお話もありましたので、おそらく子どもたちは、靴を脱いでソファに上るでしょうと。</p> <p>さらには、ちょうどいいぐらいの高さで、下を覗きたくなる高さなんじゃないかなと思います。</p> <p>今、お話があった様に、ここに関しては、下を覗かなくても良いということであれば、もう少し思い切って安全性を優先して、高くするというのも必要なのかと。</p> <p>たぶん、そういったお考えからのご質問だったと思いますので。</p> <p>あまり、この1,100というものに拘らず、安全性という事でお考えいただくのも、一つ、検討のプロセスかなと思いました。</p> <p>その他いかがでしょうか。</p>
委員	<p>私もYAコーナーの利用動線の話ですが、委員がおっしゃったように、利用者の動線というのは、これから考えていかれるかと思いますが、実際、手前にあるのが、大活字本とか、朗読CDとか。</p> <p>いわゆる読書バリアフリー資料と呼ばれる。</p> <p>障害のある方用とは言われますが、実際は、図書館での利用は、大活字本とか朗読CDとか、高齢者の方の利用が非常に多</p>



	<p>いというのが実状です。</p> <p>その高齢者の利用が多いところの奥に、YAコーナーを置くというのが、利用者の動線としてどうなのかなと思うところがございます。</p> <p>高齢者の方がいらっしゃる、その奥に、中高生が入っていくかなというのが、ちょっとございまして。</p> <p>今後、図書館の方と詰められていくかとは思いますが、そういった動線。</p> <p>資料と動線の関係が気になっているところではあります。</p>
委員長	<p>ありがとうございます。</p> <p>いかがでしょうか。</p> <p>今のご質問に対して。</p>
受託業者	<p>消極的に決まっているところではありまして、いつも打ち合わせさせていただいている図書館のメンバー、今、ここにいらっしゃる方とも打ち合わせさせていただいておりまして、もうちょっと積極的に意見交換をしたいと思っておりますので。</p>
委員長	<p>色々、ご議論の上という事ではありますが、この場でのご意見というのもお伝えいただきまして、さらに活発な議論という風にしていただければと思います。</p> <p>その他いかがでしょうか。</p>
委員	<p>失礼します。</p> <p>よろしくお願ひします。</p> <p>先程、オンラインで説明していただいた方のお顔が出ていますが、一つ、お伺いしたいのですが、採光ですとか、空気の流れであるとか、色んな資料をいただきまして、非常に参考になったのですが、もう一つ、大きくは避難経路と言いますか、それが全然ないのですが。</p> <p>この件について、私が場違いな質問をしているのか。</p> <p>こういう既設と増築の新しい部分を兼ね合わせた場合の動線。</p> <p>あるいは、図書館としての避難経路を含めて、その辺りを図示していただけるとありがたいと思ひました。</p>

委員長	<p>ありがとうございました。 避難経路に関しては、建築側の方がよろしいかなと思います。</p>
受託業者	<p>我々の方で計画するのですが、細かい話をさせていただくと、今、このR状になっている木造部分。 この部分を木造にすると考えていまして、そうすると、ここを閉めることとなります。 シャッターなどで。 この木造部分は避難経路としては、2階はこちらの階段（親子ラウンジ横階段）で外に出ていただくということを考えています。 残ったこっちの壁から上の部分ですが、こちらに関しては、職員さんが使っている階段と、外に階段がありまして、こちらの二つの方向に逃げられる計画となっています。 一方、この色が違うところで、来館者が使うゾーンと、職員が使うゾーンで分かれています。セキュリティ的に切れているのですが、火災報知器等で、この扉を開錠させて避難ができるように。 そういう事をさせて、2方向避難を通るような形で考えています。 1階に関しても、基本的には風除室。 来館者の方は、風除室から出ていくことを考えていますが、一応、2方向避難としては、こちらのセキュリティがかかっている扉。 こちらからも、外に出られるような事を考えています。 あとは、先程、言いました、木造部分とコンクリートの部分で、避難を分けるということ。 実際に、例えば、こういうところからだ、この端っまで行かないといけないので、それが本当に成り立つのか、やっぱりこっちから避難させないといけないのか、その辺については、今後の検討になります。 木造を採用するということなのですが、今度の4月に法律が大きく変わります。 新しい法律を使って、木造化しようと考えていまして、その辺の取り扱いが、まだ、はっきりしていないところがありまして、その辺については、今後、詰めていくという事です。</p>

委員長	<p>ありがとうございます。</p>
委員	<p>ありがとうございました。</p> <p>あと一回、最後の会合が予定されているのですが、できましたら、その時に、避難経路の図（赤線で示しているような）、そういう資料も大事な物かと思imasuので。</p> <p>用意していただければと考えます。</p> <p>よろしくお願ひします。</p>
委員長	<p>ありがとうございます。</p> <p>今回は改修ということですが、面積としても既存の建物よりも増えてきます。</p> <p>その時に、さらに、利用者の数も増えてくるので、単に2方向避難ということにとどまらず、利用者の安全性という、そういった視点のご意見だと受け取りましたので、ぜひ、検討していただければと思imasu。</p>
委員	<p>ありがとうございます。</p> <p>前回の会議が終わった後、仲間と図面を見た時に出た話を、事前に図書館に届けておきましたら、そこも踏まえて、今日、反映していただいている、すごくありがたいと思imasu。</p> <p>前回の図面では、死角が多かったなので、それを心配していたところ、扉を入れて、出入りを管理できるようにしていただいたり、おむつを替えるスペースを、男性でも使えるようなところに持ってきていただいていたたり、ご対応いただきました。</p> <p>その上で、先程も言っていたとおおり、フロアの要員を置いていただくということは、すごく大事な事だと思imasu。</p> <p>設計というよりも、人員の配置ということで、お願ひしたいです。</p> <p>今、先進的に取り組んでおられる図書館では、子どもの本があるところに、学校支援ボランティア等、子どもの本に関わる大人たちの勉強の本や、子育て中のお母さんが（見る）、手芸だったり離乳食だったり、そういった本が近くに置いてあります。</p> <p>大人向けのコーナーであれば棚の高さも高くなっても大丈夫ですし、キッズスペースのところを、そういったスペースに</p>

変えてくださったらどうかと思っています。

また、ご検討いただけると、ありがたいなと思います。

見せる書庫が、目を惹きますし、きっと半分は（図書館の）目玉のようにイメージしておられるかと思うのですが、昨年、佐賀の武雄の図書館と、山口の周南市の徳山駅前図書館と見てきました。

同じように、「見せる書庫」として、圧巻で、最初は感動したのですが、実際に見ていくと、本は埃だらけで、これは何なんだろうと、すごく疑問に思いました。

使い勝手としては、どうなのだろうとすごく思いました。

武雄図書館は、本当に埃だらけだったし、地震の時に頭の上から落ちてきたらどうするのだろうとも思いました。

周南市の徳山駅前図書館へ行った時は、高いところは、全部、本の印刷された壁紙が貼ってありました。

聞くところによると、その壁紙も、結構、値段が高いと。

特注で、本の厚みを出すような壁紙らしいよ、と聞いています。

本当に書庫として活用できて、書庫を補えるような物としてできるのであれば、歓迎するのですが、見栄えの為に金を使われるというのは、いかがなものかと。

これきっと、埃だらけになるし。

武雄の図書館には、観光客がすごく多かったです。

だから来館者は多いのですが、別に図書館を利用するわけではなく。

来館者が多いということは、埃が入ってくるのも多くなりますし、実際、職員の手が取られるのも多いと思います。

図書館というのは、やはり市民の為のサービスなので、市民が十分満足して使える図書館を目指してもらった時に、それはどうなのかな、と疑問に感じたので、ここで話させていただきました。

それと新聞の棚が、今、彦根の図書館は、毎日の新聞が置いてあるだけかと思いますが、例えば、今日の新聞を読んだ時に連載の前の週、前の日の新聞を見たいとなった時、そういう事も、多々、あるかなと思った時に、1か月分くらいの新聞を置く棚が近くにあると、図書館の人に、いちいち、お願いして取りに行っていたかなくても、自分で出せるのではないかなと思います。

	<p>図書館スタッフの手間も省けて、いいのではないかと思います。</p> <p>それと、本筋から外れると言われるかもしれませんが、もう一つ。</p> <p>先程の環境のお話がすごくおもしろくて、すごくいいなと思ったのですが、太陽光が発電するというのは、最高で5月とか6月ですよね。</p> <p>その時には風が入って、冷暖房は必要ないのですね。</p> <p>そうなれば、蓄電池とかがあればいいなと思って。</p> <p>蓄電池とかを置くスペースも。</p> <p>私の家も、建てた時に太陽光発電を付けたのですが、その後、蓄電池を置こうと思ったら、どこに置こうかと困っているので、そういうことも含めて、考えてみたらどうかしらと思ったものですから。</p> <p>思い付きで失礼ですが、それも併せて。</p>
委員長	<p>ありがとうございます。</p> <p>何か、その件に関していかがでしょうか。</p>
受託業者	<p>新聞の話は、図書館とも打ち合わせさせていただいて、その日の分が見られるように考えているのですが、その周りに、一応、新聞架というのを用意して。</p> <p>今まで1週間分が見られるようにしていたのを、たくさん置けるようには検討しております。</p> <p>ここは割と具体的に話ができているところです。</p> <p>「見せる書庫」というところの清掃の話ですとか、当然、そういうところはあるので、その辺は、やはり、やりやすいようにとは思っているのですが、図書館という機能だけでなく図書館が使われていくということもあるのですが、どうしても我々建築の設計をしているので、その建物の個性だったり、それと図書館の機能とが相まって、彦根市民の方がこの図書館好きだなと、図書館だけど、外の人が来たら連れて行ってくれるような、そういう場所にはしたいと思うので、何かしらのデザイン的な要素というのはありますが、やはり、管理上の話もすごく大切なので、その辺りもちゃんとやっていこうとは思っています。</p>

<p>委員長</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>今の話は、建築のそもそもの在り方というか、建築が市民にとって、利用者にとってどうあるべきかと。</p> <p>そういった話でもあるかとも思いますので、この件は、本当にしっかりご検討いただいて。</p> <p>どういう図書館になるのかというところかと思います。</p> <p>それと、蓄電池のお話もありましたが、冒頭で設計者のお話がありました太陽光発電、ぜひ、ということもありましたが、おそらく基本設計の段階では、細かいところまでは、検討に及ばないのかなとも思いますが、スペースというお話もありましたので、その辺りの事をご検討いただければと思います。</p>
<p>受託業者</p>	<p>太陽光発電と蓄電池のセットというのは、他の建物でも計画したことはあるので、費用感とか、スペースというのは把握しているのですが、ただ、彦根市さんの方で最初に計画していた予算だと、そういう事まで見込まれていないので。</p> <p>ただ、そういう事っていうのは、すごく、プラスだと思うので、ぜひとも、そういう予算を確保していただければ、我々としてはありがたいなと思います。</p>
<p>委員長</p>	<p>そうですね。</p> <p>ぜひ、予算をとというご発言があったことをしっかりと記録していただければと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>昨日の新聞ですが、滋賀県が発表されています。</p> <p>4月から滋賀県は、滋賀県全体を図書館に、を進めていく、と。</p> <p>特に4月からはこども図書館を推進していくという一つの方針を滋賀県が発表されています。</p> <p>この中部館につきましては、ちょうどタイミング的に良いように思います。</p> <p>利用者の皆さんは、この図書館の中部館が素晴らしいと思ってもらえるというわけですが、その中で、特に資料の4ページを見ていただきたい。</p> <p>中部館の設計につきましては、先程、説明がございましたように、非常に垢抜けして、非常に感性が高いわけですが、4ページ、特に子どもたち、今、4歳、5歳の子ども達が、将来、</p>

	<p>この図書館を利用する際、子どもたちの感性から見た場合、わくわくするような図書館なのかな、どうかなと思います。</p> <p>側面的に。 中身はいいのですが。 以上です。</p>
<p>委員長</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>4ページといいますと、立面図ですかね。</p> <p>おそらく、今のご質問は、立面図、この図面で見えていただくより、模型で見えていただく方がわくわくするかなと思いますので、もしよろしければ、模型で補足のご説明などがあれば。</p>
<p>受託業者</p>	<p>特には。 大丈夫です。</p>
<p>委員</p>	<p>先程の壁面書架、高い書架に件で、もう少しご説明をお願いします。</p> <p>ちょっとよくわからないのが、扉を付けるとおっしゃっていましたよね。</p>
<p>受託業者</p>	<p>2階ですか。</p>
<p>委員</p>	<p>高い書架。 見せる書庫です。 扉というのは、これはガラスの扉ですか。 見える扉ということですか。 イメージがわからないのですが。</p>
<p>受託業者</p>	<p>図書館と打ち合わせをしていた中で、ここが細い通路があるのですが、この通路に、一般の方が入らないように、手すりの高さに合わせた扉を作るという意味での扉です。</p>
<p>委員</p>	<p>そうしたら、書架はそのまま。 通路を隔てて見るという。 一般の人は。</p>
<p>受託業者</p>	<p>そうですね。</p>

委員	<p>その書架から取るのは、どのような事を考えてらっしゃいますか。</p>
受託業者	<p>職員の方が、脚立とかで取るという事を考えております。</p>
委員	<p>見えない書庫の本というのは、皆さん、検索をして探すのですが、見えていると、どうしてもあの本読みたい、この本を読みたいという要望が出てくると思うのです。</p> <p>そういう要望が出ない、さっきおっしゃっていたデザイン的なものというのは、あまり意味がないかなと私も思うのですが。</p> <p>一応、閉架だけれども、こういうのがあるよという形での意味があると思うのです。</p> <p>ですから、書庫にスペースがないのであれば、こういう利用者が見られる形の書庫というのはいいとは思いますが、「あれ取って」、「これ取って」に対して、どのように対応を考えてらっしゃるのか、それに応えられるのかというのがちょっと気になりました。</p> <p>ですので、先程の話も併せて、これはやっぱり「生きた書庫」にしてほしいと思いました。</p>
受託業者	<p>先程、武雄の話や、徳山の話がありましたが、徳山は、私も見ているのですが、こけおどしなんですね。</p> <p>ああいうのはやりたくないなと思っていまして、実際に使う「生きた書庫」ということで、我々は、最初、利用者に使わせようというところもあったのですが、やはり安全上の話があるので、やっぱり職員の方で。</p> <p>職員の方も、ここを積極的に使っていこうと言っていたので、ちゃんと使える場所になるだろうとは思っています。</p> <p>あとは、使いやすさの方だと思います。</p> <p>「あれ取って」と言われることがあると思うのですが、ちょっと、そこはどうやって対応するかは。</p> <p>どう並べるかというところもあるかと思っています。</p> <p>その辺は、もう少し話していきたいと思っています。</p>



委員長	<p>そうですね。 管理の部分も非常に比重として大きくなるかと思しますので、ぜひ、議論を深めていただければと思います。</p>
受託業者	<p>見てもなんとも思われなような本が置かれていても、良くないしということですよ。</p>
委員長	<p>それが、今、おっしゃっていた「生きた」ということですよ。 非常にいいキーワードをいただけたのではないかと思いますので、「生きた書庫」ということで、ご検討を進めていただければと思います。</p>
委員	<p>少し細かい事なのですが、4点ほどあります。 閲覧ラウンジの雑誌架ですが、先程、言われていたように、途中ということもあるかもしれないですが、一番、広いスペースで、なおかつ玄関から入って、最初に見えるところなので、もう少し、雑誌架とソファの一体感があつた方がいいのではないかと思います。 次に、読書通帳が設置してあるのですが、誰を対象にされているのかというのが気になりました。 彦根市さんは、すでに読書通帳を実施されていると思うのですが。 場所的に、2階ではなくて、ここにあるというのが、YAを意識されているのか、それとも一般も対象にと思われているのかが、少し気になりました。 もう一つ、自動貸出機の位置ですが、通常で考えれば、利用者が借りて帰られる途中で、なおかつカウンターの方から見るところと考えると、プラネットの丸柱のところに2つ持つてくると思いますが、現在の場所だと、一旦、帰ろうとする時に、左に折れて、立ち寄りなければならない動線になります。 先程も言いました、全体としてのカウンターの役割、2階のカウンターの役割も含めての検討になるかと思いますが、どのようなカウンターでの貸出・返却、予約の受け取り等、役割を考えて配置されたのかなと、そうすると、ちょっと場所が違うのかなと思いました。</p>

<p>委員長</p>	<p>それと最後に、コピー機ですが、レファレンス（コーナー）とだいぶ離れているということも気になるのですが、これは仕方がないのかなとは思いますが、現在の位置だと、利用者の動線と職員の動線が引っかかる場所にあると思いますので、もう少し工夫していただいた方がいいのかなと思います。以上4点です。</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>比較的、具体的な位置に関してですが、何かご意見いただければと思います。</p>
<p>受託業者</p>	<p>コピー機の位置は、扉をいじった際に。</p> <p>そうですね、もう少し調整させていただきます。</p> <p>雑誌架とソファの一体感というのは、貴重なご意見で、そうしたところは、もう少し詰めていかないといけないところだと思っています。</p> <p>読書通帳に関しては、やるかやらないかも含めて、まだ議論と言われていまして、2カ所置くことも難しいだろうという事もありまして、下に、一般の方も使えるような形で置いています。</p> <p>自動貸出機ですが、これに関しては、どうしても大きなボリュームとして出てくるので、吹き抜けのところに置くのに、なかなか抵抗がありまして。</p> <p>図書館も使い勝手だけでいくと、吹き抜けの部分、出口に近いところといったご意見もあったのですが、なるべく吹き抜け側には出たくないなという事で、この位置にしています。</p> <p>それで本当に機能するのかというところは重要だと思いますので、その辺は、頭に入れて、もう一度、検討してみます。</p>
<p>委員</p>	<p>自動貸出機については、無ければ無い方が良くて、カウンターで貸出しをする方がいいと思っているのですが、置く以上は使えないといけないと考えると、やはり自動貸出機を置くということは、省力化からなので、きちっとそこ（機械）へ誘導できるようにということが、本来、求められることなのかなとも思います。</p> <p>そんなに自動貸出機を使いたくないよ、カウンターできちりやりますよと思っておられるのなら、そういう形がいいの</p>

<p>委員長</p>	<p>かなと思います。 以上です。</p> <p>ありがとうございました。 それでは、だいぶご意見も出てきたと思いますが。</p>
<p>副委員長</p>	<p>環境シミュレーションの話で、すごく先端的なシミュレーションで、自然換気を促しているという質の高い設定をされているなと思いました。</p> <p>いくつか質問で、既存建物の方ですが、改造したりするのも予算がかかってしまうかと思うのですが、既存建物も、少しの工夫で、より自然換気が促されるような何かがあれば、ご検討いただきたいです。</p> <p>あと、余計なお世話ですが、外装がすっきりしたデザインをされていて、そこに網戸と開き窓。 すっきりしたところに、何か、野暮ったくなる感じがしたのですが。</p> <p>余計なお世話で申し訳ないのですが、その辺り。 どのようにデザインと換気の事を考えておられるのか。 自然採光のシミュレーションをされていたのですが、ラウンジの部分と一般開架の部分と、人口照明はどのようなイメージをされているのか教えていただけますか。</p>
<p>受託業者</p>	<p>既存部分の自然換気に関しては、ここの窓が有効だと伺ってしまして、このシミュレーションでも、そういう結果が出ているのですが、ここの窓を開けることで、こちらから中を通して、この上に出てくるという結果があります。</p> <p>児童開架が、増築部分と既存部分が、中でつながっていますので、そこは、一体的に換気をしたいなと思ってしまして。</p> <p>ここに敢えて開口を付けることで、児童開架を通り抜けながら、この上のハイサイドライトまで流れていくという風の動きを敢えて作りました。</p> <p>そうすることで、この空間を一体的に自然換気ができるという計画になっています。</p> <p>その他、個室になっているような、ある程度、閉じた空間につきましては、それぞれの窓を開けていくなり、建具等を変更していくなり、今後も検証してまいります。</p>

<p>副委員長</p>	<p>それぞれの小さな部屋につきましては、それぞれで換気ができるスケールだと思っています。</p> <p>この難しい部分だけ、既存と増築部分を横断しながら、効果的な自然換気となっています。</p> <p>一般開架は、天窗が少しいくつか開いたら、自然換気が促されそうな気がするのですが。</p> <p>素人で申し訳ないですが。</p> <p>そういうのは、考えられるのでしょうか。</p>
<p>受託業者</p>	<p>一般開架、悩んだのですが、天窗を開けるのは、たぶん可能なのですが、空気の入口がなくて、フレッシュエアーが入ってくる入口が作りにくいので、この部屋は、敢えて閉じている事を利点として、この部屋に関しては、他の部屋が自然換気をしていても、この部屋は空調をしていて、より安定している場所として、環境の違いという意味で、選択性のある居場所を館内の中でも作っていく、ということでもいいのかと思っておりまして、今、その様に考えております。</p> <p>照明については、今、検討しているのは、このハニカムビームとハニカムビームとの間に、小さな照明を入れていくという事を考えていまして、光が足りない時は、その照明で補う事を考えています。</p> <p>夜、特に冬の夕方は、照明が完全に必要なのですが、外から中がよく見えるような明るさを確保しようとしています。</p>
<p>委員長</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>今の話と絡んでなので、私の方からも意見ということでお話をさせていただきます。</p> <p>色々、シミュレーションされて、非常に委員の皆様方も様子が見えてきたのではないかと思います。</p> <p>今日、冬至と夏至のシミュレーションをされていましたが、もう一つ重要な視点としては、一番暑い日、8月のお盆前後ですよね。</p> <p>それと、一番寒い時期。</p> <p>彦根は、だいぶ寒くなりますので。</p> <p>その時の様子も含めて、シミュレーションされて、光の様子、室内環境の様子などもご検討を。</p>

<p>受託業者</p>	<p>これからされていくかとは思いますが、一言だけ付け加えさせていただきます。</p> <p>認識はしております。</p> <p>一番夏のピークの8月ですとか、一番冬のピークの2月頃に関しましては、これは、今、自然の力だけで室内温熱な環境を整えていく、パッシブデザインと言いますが、そちらの検討と並行しまして、ピークの頃は、冷暖房が必要な時期になりますので、これに関しては、設備計画がもう少し進んだ段階で設備設計さんと一緒に、そのピークになる時期の日照の影響ですとか、一番寒い時期の足元の冷え込みですとかを解消していく為の検証をしながら、シミュレーションを活用して、検証していきたいと認識しておりますので。</p> <p>もう少々、お待ちいただければ。</p>
<p>委員長</p>	<p>おそらく快適性に影響するところだと思いますので、ぜひ、よろしくお願いします。</p>
<p>委員</p>	<p>私、個人は、そんなに執着はないのですが、若い人と話をしていると、最近、図書館にちょっとしたカフェが付いているところが多くて、彦根の図書館は新しくなったらカフェはあるのといった事を聞いたりします。</p> <p>こんな小さなスペースなので、なかなか難しいだろうなと思いますし。</p> <p>この前、名古屋の県立図書館に行った時に、小さなスペースでお茶を出しておられて、そこでパンも売っておられて、窓際のところだけは、食べたり飲んだりしても良いですよというスペースもありました。</p> <p>それで、水道など、こういう段階でないと、後からは付けられないと思うので。</p> <p>そういう事(カフェスペース)がもしもどこかの箇所であれば、若い人は喜ぶかなとちょっと思いまして。</p>
<p>委員長</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>給水といいますか、水の供給というのがポイントになるかと思いますが、いかがでしょうか。</p>

受託業者	<p>これに関しては、一度、我々の方も、そういう（飲食スペース）のはどうですかという、どう考えてらっしゃるか、意見をお伺いしたのですが、図書館からは、こちらでは飲食はしないという事で、今、無い状態です。</p> <p>その代わりに、アリーナ（プロシードアリーナ彦根）の方に、飲食できるスペースがあります。</p> <p>まちなか交流館。</p> <p>そちらの方を使ってもらったらどうかという。</p> <p>図書館との議論の中でありました。</p>
委員	<p>アリーナは、たぶん自販機が置いてあって、それで、お茶を飲むという感じですよ。</p> <p>若い人が言っているのが、「カフェ」ということで。</p> <p>そこは、だいぶ違うかと思えます。</p> <p>スペースの関係もありますし、大事な物は何なのか、何を最優先するのかということになるかと思えますが。</p> <p>若い人にとっては、カフェって重要なんだなと改めて思うことがあったので、発言いたしました。</p>
委員長	<p>やはり最近の図書館の様子を見ていると、カフェが素敵だから来るといふ。</p> <p>まずは、そこがあつてという傾向もみられますので。</p> <p>また、この点に関してはなんとも。</p>
副委員長	<p>設計者さんと言うより運営の問題だから、市の宿題ですかね。</p>
事務局	<p>彦根市としましては、まずは既存の利活用を考えていまして、次に本格的な図書館を作っていこうというのが今回の主目的でございますので、まずは図書館として、ゆったりと皆さんに喜んでもらえるようなものを作らせていただいて、その後ですよ。</p> <p>その後、どう付加価値を付けていくかという。</p> <p>今のカフェですとか。</p> <p>ただ、カフェは飲食ですので、やはり本を汚したりといった事もございますので、今のところその様なコーナーを作るといふのは、想定していません。</p>

<p>委員長</p>	<p>ただ、夏場暑い日、脱水症状の関係などで、お客さんが水分補給できるコーナーは作りましょうと今進めておりますので。</p> <p>貴重なご意見だとは思いますが、まずは本格的な図書館を目指すということで進めていきたいと思っていますので、ご理解をいただければと思います。</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>「本格的な図書館」がどういうものを示すのかというのがあるかとは思いますが、これからの図書館を考える上で、重要なことかと思いましたので。</p> <p>だいぶ時間が過ぎておりますが、いかがでしょうか。</p>
<p>委員</p>	<p>今の件に関してですが、飲食を置く場合は、例えば、プロシードアリーナのような自販機でどうぞという感じならともかく、カフェとなると、たぶん業者が入ったり、そんな形になってくると思います。</p> <p>そうすると、図書館とは別の管理者が入り込んでくるといって、やはりそこの契約関係であるとか、いろいろ話す余地が出てくるでしょうし、むしろ図書館としての機能を最優先するという事を一つの前提において、今、図書館が考えておられるように、飲用できる場の提供と言う方向がいいのではないかと思います。</p>
<p>委員長</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>ちょっとだけ余談になりますが、新幹線の車内販売がなくなった。</p> <p>皆さんご存知の通りですが。</p> <p>それに伴いまして、ホームに、ちょっとおしゃれな、紙カップで出てくるような自販機が登場しているというのを目にした時に、単に缶が出てくるような自販機ではなく、いろんな多様な物も展開されていると思うので、そういうのも一つ検討の対象かなと思います。</p> <p>すみません、ちょっと感想で申し訳ないですが。</p>
<p>委員</p>	<p>こだわりはないと言いながら、何度も申し訳ないのですが、業者が入るような、そんな大層なスペースはないと思うので。</p>

<p>委員長</p>	<p>名古屋の図書館は、例えば、ガラスの面の所の一角だけを、食べてもいいですよとなっていたかと思います。</p> <p>本当にお茶を出すという。</p> <p>八日市などは市民の活動団体が運営されていて。</p> <p>業者を入れると、ただの提供するだけのところになるのですが、八日市はすごく雰囲気良くて、色んな会話があつて、コミュニティを作っていく上で、重要な役割を果たしているなと思いました。</p> <p>そういうきっかけにもなるかと。</p> <p>業者を入れる、というのは、また全然違う話かなと思いました。</p> <p>すみません、こだわりがないと言いながら。</p> <p>おそらく、今の話を伺っていると、まず図書館があつて、そこをサポートするようなカフェ。</p> <p>カフェが全面に出てくるということではないというご認識かと伺いましたので。</p> <p>「本格的な図書館」という言葉も出てきましたが、この点に関しては、やはりしっかりと議論した上ですることかと思えます。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>予定の時間をだいぶ過ぎていると認識していますが、特になければ、これで、一旦、ご意見をいただいたという形で進めていきたいと思えます。</p> <p>どうしてもということがあれば、お伺いしますが、いかがでしょうか。</p> <p>よろしいでしょうか。</p> <p>そうしましたら、一先ず、平面計画、環境計画、だいぶ多様な、いろんな視点からご意見をいただきました。</p> <p>ご説明も、今日はだいぶ丁寧にさせていただいたのではないかと思います。</p> <p>それでは、次「(4) 国などの補助制度について」、事務局より説明をお願いします。</p>
<p>受託業者</p>	<p>——説明——</p>
<p>委員長</p>	<p>ありがとうございます。</p>



委員	<p>素材、資源循環と省エネルギーというのは、環境負荷への基本的な二つの大きな軸になるかと思しますので、ぜひ、検討を進めていただいて、環境に対してもより良い建築になるといいかと思えます。</p> <p>それに加えて、改修におけるZEBというのは、まだまだ、これから事例もたくさん増えてくるかと思しますので、先進的なものになるといいかと思いました。</p> <p>この件に関しまして、いかがでしょうか。</p> <p>よろしいでしょうか。</p> <p>今回の図書館の国の補助については、準備を進めておまして、全体事業費の1/2を国土交通省から補助をいただくという事で進めております。</p> <p>今、資料で、多々、補助があるということで、紹介はあるのですが、全体を見ていると、1/2もないのも多いです、それほど大きな金額を補助できるというものも、なかなかないみたいですね。</p> <p>全体パッケージで、全体事業費で補助をいただける、今、都市計画が考えている補助で、すべてクリアできるのかなと思っております。</p> <p>滋賀県 material を使って、びわこ材のマーク、認証を取るというのは、ブランド的に必要かと思うのですが、補助としては、国交省の補助を取れば、だいぶん助けていただけるので、効果的に図書館整備ができるかと考えております。</p> <p>それはまた、図書館と調整しながら進めていきたいと思っております。</p> <p>1/2補助を目指して、努力をしているということだけ紹介させていただきます。</p> <p>それと、ZEB ready の方も、それをすれば事業費の嵩上げで、本来21億まで補助を取れるのですが、30億まで上げられるという国土交通省の優遇措置も出てきていますので、もしそういうことがあるならば、そういう優位な補助を申請していくということも十分あり得ますので、そういう事も踏まえて、いろいろと考えていただければと思います。</p> <p>補助を取って、整備費は高くつくけれども、ランニングコストを考えた上で、トータルでどうなのかという事を検討しながら、全体を検討していただければと思います。</p>
----	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<p>委員長</p>	<p>よろしく申し上げます。</p> <p>貴重なご意見、ご報告ありがとうございます。</p>
<p>副委員長</p>	<p>びわこ産材を使うというのは、ストーリーとして、すごく良いので、できることならメインフレームにも、大々的に使っていただきたいなと思う反面、滋賀県にはCLT工場も集成材工場もたぶんないので、材料が行って返ってというのは逆にコストが高くなる懸念があつてで。</p> <p>よく調べてもらえればと思います。</p>
<p>委員長</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>今、副委員長からお話があつた、材料は近くにあるのだが、工場が近くにないのでという、非常に厳しいところもありますが、その辺りも含めてご検討いただければと思います。</p> <p>それでは、ご意見がなければ、最後「(5) 実施設計委託業務等の執行方法について」、事務局より説明をお願いします。</p>
<p>事務局</p>	<p>——説明——</p>
<p>委員長</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>これは次回、何か進展のご報告が。</p>
<p>事務局</p>	<p>次回には、ご報告できればと思っています。</p> <p>すみません。</p> <p>今のところは、この3種類のうちのいずれかということで。</p>
<p>委員長</p>	<p>わかりました。</p> <p>そういった状況ですが、何かご意見はございますでしょうか。</p>
<p>副委員長</p>	<p>発注方式は、この場で議論するような話でもないかとは思いますが、さっき設計者がおっしゃっていたように、CLTハニカムというのは世界初の構法であつて、たぶん、この建物の大きな目玉であると思いますが、技術的な面も含めて、設計の質を担保できるような方法っていうのを、ご検討いただければと思います。</p>

事務局	<p>おっしゃる通りでございますので、そういった事も踏まえて、どれが一番いいのかというのを検討してまいりたいと思います。</p>
委員長	<p>では、次回に向けて、ご検討を進めていただければと思います。</p> <p>その他、いかがでしょうか。</p> <p>よろしいでしょうか。</p> <p>それでは、本日はありがとうございました。</p> <p>たくさん、いろんな側面から、実際の使い勝手、それから計画、幅広いご意見をいただいたかと思えます。</p> <p>そうしましたら、意見徴収は、今回第3回で最後となります。</p> <p>1回から3回まで、皆様からいただいたご意見については、事務局で改めてご検討いただいて、基本設計の中に反映していただければと思います。</p> <p>それでは、本日の議事は、これをもって全て終了します。</p> <p>長時間に渡りまして、委員の皆様方、貴重なご意見とともに、どうもありがとうございました。</p> <p>お疲れ様でした。</p> <p>それでは、進行を事務局にお返しします。</p>
事務局	<p>委員長、ありがとうございました。</p> <p>それでは、次第の「3 その他」、「次回の日程について」は、本日、日程調整表を提出していただきましたが、調整がつかせんでしたので、後日、改めて、調整させていただきたいと思っておりますので、ご了承ください。</p> <p>それでは、閉会にあたりまして、彦根市立図書館長よりお礼の言葉を申し上げます。</p>
館長	<p>—————お礼の言葉—————</p>
事務局	<p>それでは、これもちまして閉館とさせていただきます。</p> <p>本日は、どうもありがとうございました。</p>

	以上
--	----